

日本人類遺伝学会第22回大会記事 (1977)

Proceedings of the 22nd Annual Meeting of the Japan Society of Human Genetics, 1977

会 場 宇部市, 渡辺翁記念会館
 会 期 昭和 52 年 11 月 10 日, 11 日, 12 日
 大会会長 小西俊造教授
 担当教室 山口大学医学部小児科学教室
 発 表 学会賞受賞講演

根井正利 (テキサス大学) : 人類を対象とした分子集団遺伝学と進化の理論的研究
 特別講演

三輪史郎 (山口大・医) : 赤血球酵素異常症の遺伝生化学的研究
 シンポジウム

ダウン症候群の問題点

司会 : 外村 晶 (東京医科歯科大学) ・ 佐々木本道 (北海道大学)

一般演題 108 題

第1日 (11月10日)

小西大会会長の開会の辞につづき, 午前には一般演題 21 題が発表された。午後は総会議事に始まり, 学会賞の受賞式, 同受賞講演が行われ, 引き続き一般講演 20 題が発表された。

第2日 (11月11日)

午前には一般演題 21 題が発表され, 午後は特別講演, 記念撮影と進み, その後6人の演者によるシンポジウムが行われた。

第3日 (11月12日)

この日は一般演題だけで, 午前中に 21 題, 午後に 25 題が発表された。

なお, この3日間の大会に参加した会員は 270 名であった。

評議員会

日 時 : 昭和 52 年 11 月 9 日, 18 : 30 ~ 20 : 30

場 所 : 国際ホテル宇部

出席者 : 名誉会員を含め 50 名, 議長は井関尚栄会長

1. 報告事項

庶務, 会計, 編集についての会務経過, 理事の業務分担, 編集委員長, 遺伝相談ネットワーク委員長の委嘱, 科研費の特定研究題名と内容等について報告がなされた。また, 次期幹事として, 日暮眞評議員が庶務担当, 外村晶評議員が会計担当, 笹月健彦氏が編集担当となるむね報告された。

2. 協議事項

1) 新学会長の推挙

井上英二理事を本総会に対し新しい学会長として推挙することを決定した。

2) 名誉会員

ベルギーの Gent 大学, Jules François 教授を国外名誉会員に推挙することに決定した。

3) 次期, 次々期大会開催地と大会会長

総会に対し, 次期 (昭和 53 年度) と次々期 (昭和 54 年度) の大会会長を推挙することに決定した (総会記事に記載の通りである)。

4) 新委員会の設置

人類遺伝教育委員会を新設し, 委員長に三輪史朗評議員 (山口大・医) が推薦され決定した。

なお, 委員は後日, 委員長から委嘱される。

総会議事

A. 報告事項

1) 庶務報告 (山本幹事)

a) 会員の移動

昭和 51 年 12 月末日現在, 本会会員数と異動は下記の通りである。

	現在数	昭和 51 年度異動			
		入会	退会	増	
普通会員	836	70	20	50	
名誉会員	国内	12	0	0	0
	国外	6	0	1	-1
外国会員	4	1	3	-2	
計	858	71	24	47	

b) 理事会

昭和 52 年 9 月 17 日と同年 11 月 9 日に計 2 回開かれた。理事の業務分担, 編集委員長の委嘱などについては 22 巻 4 号に記載の通りである。

2) 会計報告 (古屋幹事)

昭和 51 年度の会計報告は次頁の表 (p. 251) の通りである。

3) 編集委員会 (岡島編集委員長)

雑誌の刊行状況ならびに人類遺伝学雑誌編集委員会の内規が定められたことが報告された。

4) 遺伝相談ネットワーク委員会 (半田委員長)

委員会の活動状況, 社団法人日本家族計画協会の遺伝相談センターの設立などが報告された。

5) 人類遺伝教育委員会の設置 (井上理事)

三輪史朗評議員を委員長とする教育委員会を設置し, 医学教育の中における人類遺伝学のあり方と発展について検討を始めることになった。

6) 日本学術会議生物科学研究連絡委員会遺伝分科会報告 (松永委員)

文部省科学研究費特定研究の課題案として, 昭和 51 年度に「細胞質因子の基礎的研究」と「環

収 入 の 部		支 出 の 部	
前年度繰越金	2,713,406 円	雑誌刊行費	2,100,934円
会費	2,166,791	雑誌発送費	167,304
論文掲載料	642,310	雑誌編集費	90,970
雑誌購読料	199,750	事務費	365,295
広告料	52,500	大会補助金	300,000
文部省科研費補助金	850,000	国際学会費	15,900
医師会助成金	100,000	次年度繰越金	3,707,727
預金利子	23,373		
計	6,748,130	計	6,748,130

境化学変異原の基礎的研究」の2題を提出していたが、前者が採択されて昭和52年度より発足することとなった。後者については「環境科学特別研究」の中に、研究計画課題のかかなりの部分が組み込まれることとなった。

今後の課題として、医学教育における遺伝学の扱い方を取り上げることにした。

B. 承認事項

1) 会長

井上英二理事が新会長に決定した。

2) 名誉会員

山田和麻呂氏ならびに宮尾定信氏を第25,26人目の国内名誉会員に、また、L.L. Cavalli-Sforza, Stanford 大学教授、ならびに J. François, Gent 大学教授を第16,17人目の国外名誉会員に推薦することが提案され、承認された。

3) 次期大会開催地と大会会長

昭和53年度の大会会長は新潟大学の渡辺徹一教授に決定した。

なお、昭和54年度の日本医学会総会(東京)の分科会会長は東京大学の井上英二教授、また、同副会長は日本大学の北川照男教授に決定した。

理 事 会

日 時：昭和52年11月9日、16:30~18:00

場 所：国際ホテル宇部

出席者：井関尚栄会長、小西俊造大会会長、渡辺徹一次期大会会長、三好和夫、中島章、藤木典生、井上英二、岡島道夫、半田順俊各理事、松永英、柳瀬敏幸各前理事、山本茂、古屋義人、中島照各幹事、日暮眞、笹月健彦各次期幹事

1. 報告事項

庶務、会計、編集、遺伝相談ネットワーク委員会、国際人類遺伝学会、文部省科研費等に関する会務ならびに現状報告がなされた。

2. 協議事項

次期学会会長ならびに庶務、会計、編集担当の次期学会幹事の評議員会への提案、昭和53年度と昭和54年度の大会開催地と大会会長、国外名誉会員の追加、人類遺伝の将来計画等について協議がなされた。(庶務幹事 山本 茂)